

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「とことん」「No Limit 福泉」のスローガンの下、
つながりや体験的な学びを重視し、素敵な社会人を育成し、地域に貢献できる学校をめざす。

- 1) 「夢の実現に向けてチャレンジし、努力を惜しまない生徒」を育成する。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人に感謝・協力することができる生徒」を育成する。
- 3) 「自分の能力や興味を見つけ出し、学校生活に懸命に取り組む生徒」を育成する。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
 - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
- (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
 - ・これまで実践してきた授業の内容や方法等を再点検しながら、「オープンクラス」による授業見学及び研究協議を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3以上(3.09/3.03/3.15)
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（73%/78%/79%）

2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
 - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
 - ・入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育をつくりあげる。
- (2) 各種検定、就職指導、進学講習等、生徒の資質・能力を伸ばし、進路実現に向けた取組みをさらに進める。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・年度末進路決定率100%（98%/95%/94%）、学校斡旋就職[一次合格率85%以上を維持（75%/81%/87%）]
- ・進学者数における四大進学者の割合30%（29%/22%/25%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（74%/80%/81%）

3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据え、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
 - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒に寄り添いながら向き合う指導を大切にする。
 - ・家庭との連携協力体制をつくり上げるため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - ・教育相談および生徒支援体制を強化し、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
 - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、教職員の専門的な知識の習得と対応力の向上を図る。
 - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホテル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかかわる実践的な行動力の伸長を図る。
 - ・学校行事、学年行事、ボランティアを通じて地域との交流活動等の充実に努める。
 - ・国際交流を推進し、今日のグローバル社会に主体的に関わろうとする意志と行動力の醸成を図る。
- (4) 清掃・美化活動の実践を通じて、校内における環境美化を推進する。（例）清掃に関わるコンクールの実施、清掃週間。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・遅刻総数10,000件以下（H29：14,152件、H30：10,075件、R1：11,002件）、部活動加入者定着率75%以上（73%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上を維持（87%/88%/88%）
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上（80%/83%/83%）
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」90%以上（78%/72%/72%）
「部活動や生徒会活動は活発だ」70%以上（60%/67%/67%）「校内はきれいな状態である」70%以上（59%/62%/63%）

4 「信頼される学校」・「協働する学校組織」をつくりあげる

- (1) 校内外の研修、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員力の向上を図るとともに、本校教育への信頼につなげる。また、ホームページを充実させるなど外部への情報発信に努める。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
 - ・OJTによる校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務の効率化を推進すると同時に、中核となる教員の育成を図る。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・入学者選抜の志願倍率1.0倍以上を維持（R2年度選抜実績0.98倍/H31年度1.02/H30年度0.89）
- ・学校自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上（65%/59%/59%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施予定]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT 機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) オープンクラスを核に授業見学を企画・実施し ICT の活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1)(2) ・授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」とともに 3.3 以上(R1 : 3.15) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%以上(R1 : 79%)	
未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実 (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。 (2) ア. 考査や休業期間等の更なる活用等工夫して、就職指導・進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。 イ. 教育相談委員会等と連携を密にし、進路に不安を感じる生徒の個別指導を行う。	(1) 自己診断(生徒)「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答 3%up(R1 : 81%) (2) 進路決定率 100%(94%) 学校幹旋一次合格率 85%以上(R1 : 87%) 進学者における四大進学者の割合 30%(R1 : 27%)	
他者と協働できる力の育成	(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成 (2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上 (3) 社会とかかわる実践的な行動力の伸長 (4) 校内環境美化の推進	(1) ア. 生徒一人ひとりに寄り添いながら、あいさつ、マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にした理解と協力の下、粘り強い指導を継続して行う。 (2) ア. 教育相談委員会等を核に、保健部・生活指導部・教務部が協力体制を強化して SC・SSW 等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。同時に、合理的配慮や個別の教育支援計画等をまとめた「教育相談の手引き」の活用と内容の更新・改定を行う。 イ. 教員が一丸となって部活動や学校行事等の魅力作りに関わる。Web ページを充実させ、生徒の頑張っている姿を発信する。 (3) ア. 学校行事、学年行事、ボランティアを通じて地域との交流活動を実施する。 イ. 国際交流活動(長期休業中の短期留学、ホームステイ)の呼びかけと実施する。 (4) 「校内ピカピカ計画」校内清掃週間の設定、校内美化のコンクール・表彰を実施する。	(1) ア. 遅刻総数 10,000 件以内に(R1 : 11,002 件)及び生活指導専案への即応 (2) ア. 自己診断(生徒)の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」(R1 : 72%)、「いじめに、しっかり対応してくれる」(R1 : 83%) 共に 90%以上 イ. 部活動加入者の定着率 75%以上(R1 : 73%) ・HP 閲覧数 3 万件(R1 : 29,623 件) (3) ア. ボランティア体験、地域との交流活動への参加 イ. 国際交流活動の複数回実施。 (4) 自己診断(生徒)「校内はきれいな状態である」70%以上(R1 : 63%)	
信頼される学校、進化する学校組織の構築	(1) 教職員力と本校の信頼度アップ (2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進 (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成	(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・関係団体・地域等への情報提供・収集の迅速化および連携の強化 ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認 エ. 連絡票を活用した職員朝礼の実施 (2) 若手教員の育成支援や学校運営への積極的な参画を図る。 (3) ア. 業務内容の改善や新たな体制づくり、資料の整備等「働き方改革」を進める。 イ. 新規の企画を検討する「β 会議」を開催し、(進路)(広報)等、分掌・学年の枠をこえた取組みを実施する。	(1) ア. 各学期 1 回以上開催 アイ. 中学校・高等学校等と連携した研修の複数回開催 ウ. 定期的なマニュアル等の確認や研修実施 エ. 連絡票の活用(毎日) (2) ・各学期 1 回以上開催 ・複数分掌による他校視察 3 校以上 (3) アイ. β 会議年 6 回以上開催 「β 会議」において、「学校パンフレットやオープンスクール学校説明会等の広報」について協議するとともに「福泉ロードマップ」を作成する。	